

発熱外来について

当院では、新型コロナウイルスに感染すると重症化する方が、多く通院されているため、感染拡大防止対策を取っています。このため、発熱（37度以上）、全身倦怠感、せき、咽頭痛、下痢・嘔吐などの症状で診察を希望される方は、**必ず事前の電話連絡の上**、通常診療時間外に対応させていただきます。通常診療終了後、当院よりお電話しますので、それまでお待ち頂くことになります。なお、当院で対応できる方は限られており、下記のように事前に検査キットを取りに来ることも困難な場合や、症状が辛い場合は、当院での対応は困難ですので、横浜市新型コロナコールセンター（24時間受付）045-550-5530 へご相談下さい。

診察までの手順

午前；事前に検査キット（抗原定性検査キットとPCR唾液検査容器）を取りに来て頂きます。この際、**保険証と新型コロナワクチン接種券**をお持ち下さい。院内には入らず、自動ドア横のインターホンを鳴らしてお名前を伝えて下さい。スタッフが検査キットをお渡しします。→ 一旦、自宅へ帰って頂き、抗原定性検査を実施し、検査結果をクリニックへ電話して下さい。陽性の場合はスマホなどで結果を撮影頂き、陰性の場合は唾液用PCR容器に唾液を2ml採取し、蓋をしっかりと閉め、お渡しした袋に入れて診察時にご持参下さい。→ 後ほどクリニックから電話しますので、指示に従ってご来院。→ 午前診療終了後診察。

午後；午前と異なるのは、抗原定性検査陰性の場合です。検査会社への当日中の回収に間に合わせるため、**唾液PCR検体を18時までにクリニックへご持参**下さい。この際も、院内へは入らず、インターホンを鳴らして下さい。→ 午後診療終了後診察。

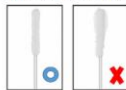
ご参考；抗原定性検査の一例を下図にお示しします。検査キットにより異なりますので、説明書をお読みになり実施して下さい。ご不明な点があれば、お電話下さい。

①検体採取

綿棒を袋から取り出します。
× 綿棒を手で触らないようにしてください



鼻の中2cmほど（綿球が鼻の中に隠れるくらい）挿入し、鼻腔壁に沿って綿棒を15秒程回転させます。同じ綿棒で**両方の鼻**から検体を採取します
× 多量の出血や過度な鼻汁の付着は避けます



②試料調製

抽出用バッファチューブの蓋シールを開け、(A) 検体採取した綿棒を入れ、10回以上もみほぐします



(B) 検体を絞りだすように、チューブから綿棒を引き抜きます
(C) ノズルキャップをチューブに押し込み、しっかりと締めます

こちらで動画をご覧ください



SARSコロナウイルス抗原キット ご使用方法 -裏面-

③検体滴下

テストデバイスの検体滴下孔（丸い穴）へ、チューブから検体を3滴垂らします。



C（コントロール）ライン：測定が正しく行われたことを示す
T（テスト）ライン：コロナウイルス抗原が検出されたことを示す

○ 垂直・真上から滴下
× 検体量が足りない
泡になってしまっても、十分量滴下されれば検査可能です

検体滴下から、時間を測ります

④結果判定

検体滴下から15分後以降、30分以内の間はいつでも結果判定ができます



Cラインが出ない場合、測定は無効

使用後は、ごみ袋に入れ、しばって封をした状態で、自治体のルールに従い廃棄して下さい